

古事記傳

二

和書門			
三六	三四	二六	類
一三	一八	四六	函
四八	冊	架	冊

內閣文庫	
三六	和書
三四	類
二六	函
一三	冊
一八	架
四八	冊

內閣文庫		
番號	和	36346
冊數	48	(5)
函號	270	14



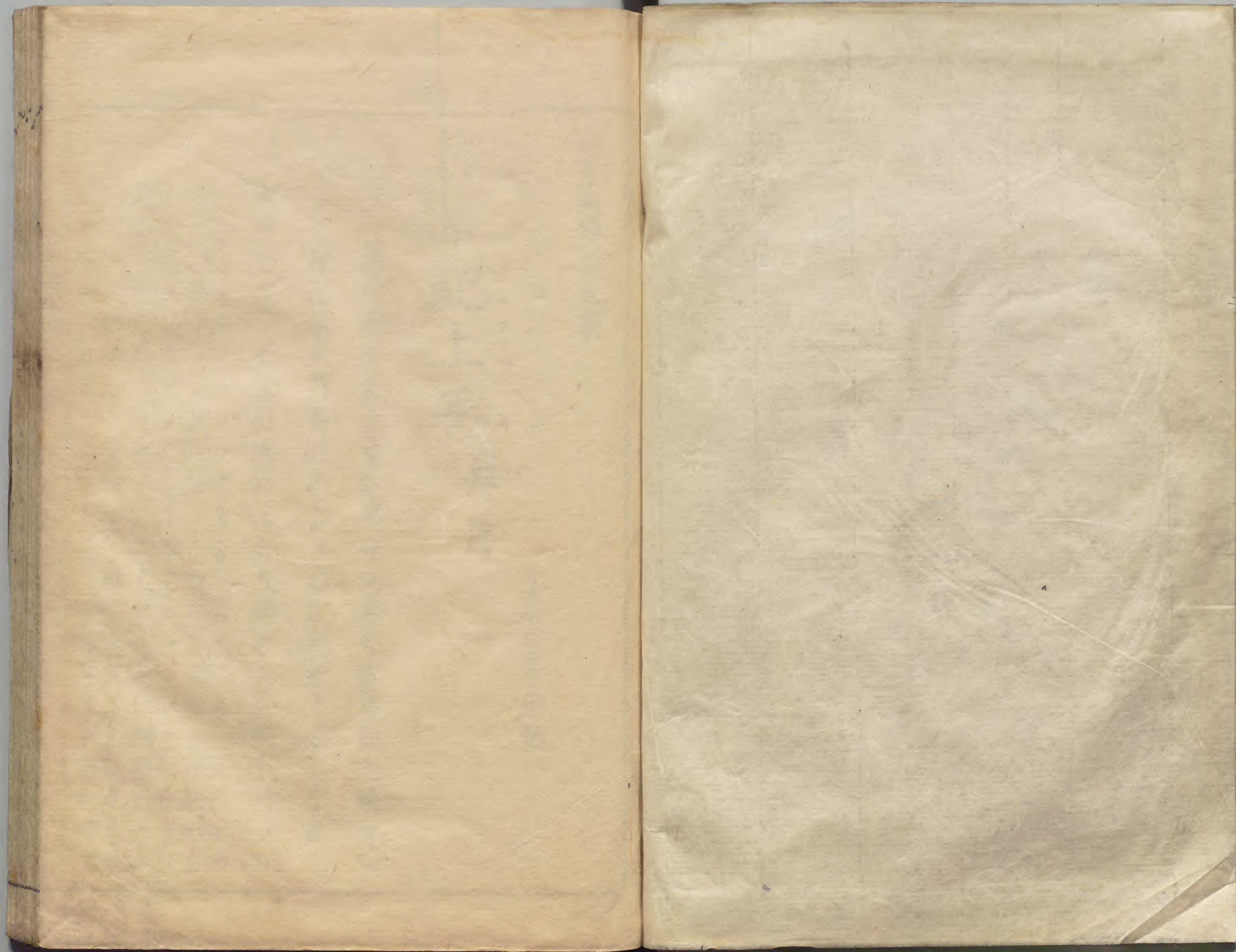
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TMI, Kodak





明治	年	
明治	文	
明治	日	
明治	月	
明治	日	
明治	日	
明治	日	

記傳二之卷

本居宣長謹撰

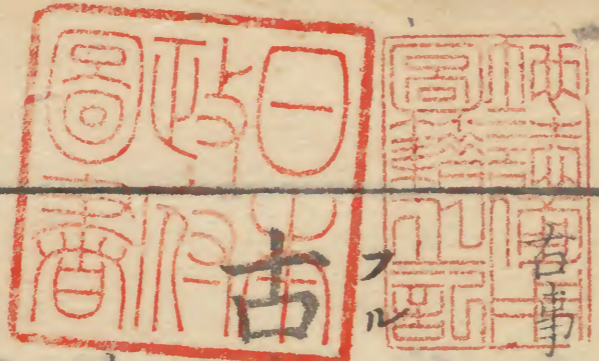
古事記上卷 并序

此標題此處は古事記序や何れて古事記上卷やい
 ろるは本文乃首にあらざるを合せてあつて書て

本文のほゞ是るは畧けるなり諸本みか同し并序は
 二序とも序ヲナラブやもよ免ども共り此方乃かの
 いひざる序の何れに是れは此の序の古言は訓が
 序字の訓もあし考へていはる中昔の奥書といふ
 へく序をバはしるが又ち何れは云物なるは是なり
 一

○古事記傳二

一



ひらきて此序ハ。本文とはいふく異ありて。次ぐ漢籍
の趣を以て。其文章をいみくかざりて書す。いり赤
史然否ぞやいあり。凡て書を著す上。不献序ハ。
然文をうごり當代を賛稱奉りなむ。漢の初。於
べその例をよに依るあり。さて然漢文をうごり
引きてハ。其意旨もあつて。漢も。或を混元既疑
何るは乾坤初分。あるは陰陽斯開。あるは齊五行之序。
あるは。いふくひの語あり。如此き。やむも。或いは
どは。文章みごころき。故あり。抑此序にか。語
やの何るを見て。ゆるりなく。本文乃旨を莫誤す。又

本文のさまや甚と異なるを。序ハ安万侶の作家
あるは。後人乃志。ごなり。いふ人もあれど。其
中。に。は。か。ぬ。ひ。が。ろ。ろ。え。なり。次ぐ。此
る。或。考。後。又。他人乃偽。書。物。は。あ。り。又。
決く安万侶。朝臣の作家なり。本文。似。漢。文。を
評。ハ。こ。よ。な。ま。れ。ど。その。か。み。さ。ば。り。漢。学。を。盛。ふ
好。る。せ。も。あ。り。世。に。事。あり。何。れ。序。の。文。を。心。如
此。さ。あ。に。書。か。べ。さ。わ。ご。ぬ。る。を。也。○今。此。序。を。註。する
ふ。あ。り。文章。れ。り。ご。り。のみ。又。書。か。と。ころ。は。あ。り。一。二
あり。解釋。て。委。曲。は。い。は。れ。其。を。み。漢。文。を。あ。り。て。要

是は本文と相比べし。序にありし孔語のあるハ返す
て古傳ふさゆ意なき證也。後べき物も正實の虚飾
との言ぢ先いふ著明し。これを以ても大御國のこ
あろばへ乃漢籍此かむむさとはくふり異なるほ
ををもさゆべく。はと本文よりはよくかも撰者孔
私をまじへざるやも知られていゆふとし加し
或人問きく。同ト安万侶朝臣。後リ書紀を撰ばし
も陰陽の説ハあり。又此序ありければ。ちか朝
臣は此説を信用られぬを見ゆるは。いづ。答ましく
書紀撰ばしは。舍人親王。其事ハ。執總ふる。こし
加。あ。ち。り。と。も。安万侶朝臣乃意は論ふべき
小あ。は。又。此。朝臣の意ハ。縦や。い。り。も。あ。れ。それ
か。は。る。べき。り。も。何。く。交。ふ。古傳ふ。ち。そ。は。

さ物ちれ

所以出入幽顯日月彰於洗目浮沈海水神祇呈於滌身

こふ所以の次こ小故といひ寔知のゆは是以
ゆいを即といふふさしも意あふ何く交ふ
輕く看はるは伊邪那岐大神の夜見國小幸
行くと幽小入云顯國又回坐を顯小出と云ふを
已日月云は阿波岐原小御襖賜へ依時の事なり
下二句も同時の事ぞ

故太素杳冥因本教而識孕土產嶋之時元始綿邈頼先聖而
察生神立人之世

太素も元始と世のほゞ先を云なり。杳冥ハ世の始、乃
以て遠とておちくくさぶらぬをいふ。冥字舊
印本もは宵の作也。それもあかかど同意あり。本教
は人小物を詔に聞けを教もいふり同トとて。神代
乃事どもを諸傳へふる説をいふなり。綿邈はとちく
はるくゆる。或いふ先聖ハ神代の事を言傳へ記し傳
へきふる。古にかゝる人あるをいふ。立人とは天照大
御神を始て各事依り賜ひしをいふなり。大御神をい
ひは、いりぐふも聞ゆれども、生神也。又思ふに識とい
云ふ對ふかへく書ふのみなるべし。又思ふに識とい
ひ察といふを伊邪那岐命伊邪那美命の御事といへ

も見佐し。其時ハ本教も天神の命詔あり。先聖も天神
を申しあり。

寔知懸鏡吐珠而百王相續喫劍切蛇以万神蕃息歟。

懸鏡とは天照大御神の天石屋よこまきし、時よ真
賢木の枝ハ八咫鏡を取掛しを云るべし。但し百王
へ係て見せ給皇御孫命乃天降坐むせし時小御魂
やして授賜ひしを云ふかやも聞ゆせども吐珠乃上
よあれはい吐珠と喫劍とは大御神也須佐之男命也
誓坐し時の事なり。万神蕃息とは須佐之男命に御子
孫神とちれむろぐり坐依るやあり。

議安河而平天下論小濱而清國土。

上、句ハ皇御孫命の天降坐むと云る時ハ百万神を
集へて議らまひし事也。下句は建御雷神の伊那佐の
小濱小降して大國主神を論ひ令伏て天下を和し靜
免賜ひし事なり。

是以番仁岐命初降于高千嶺神倭天皇經歷于秋津嶋。

仁字ハ迹牟此音を迹との二音に用ひらるなり。然例

多し。秋津嶋ハ大倭國をいふ。

化熊出爪天劍獲於高倉生尾遮徑大鳥導於吉野。

こは四乃事を四句云て二句初く對おせり。皆白檮
原御世の事にして其御段小見えたり。爪ハ字を写し

誤るるなり。山々穴々なるべし。延佳也。水々汎汎の誤

そはこ生尾也。生尾人也。あり。大鳥也。八咫鳥なり。

列儻攘賊聞歌伏仇。

此も同御段小見ゆ。但し儻のこ也ハ見えぬ。書紀あり
道臣命乃起而歌之也のみあり。されや後小久米儻也
いふ也。此時の態と聞ゆれば儻も志たむ。

即覺夢而敬神祇所以稱賢后望烟而撫黎元於今傳聖帝。

上は水垣宮御世此事下は高津宮御世の事なり。みみ
其御段小出ふり后ハ君なり。神功皇后此御事なり。其
る也。見黎元也。民をいふ。後了崇神仁徳と御謚を奉ら
えん。乃文の意なり。

定境開邦制于近淡海正姓撰氏勒于遠飛鳥

上ハ志賀官御代の事ト云近淡海其都の國名ナリ
下ハ遠飛鳥官御世の事ナリ制勒とは多ク其官小坐
まして天下の政所聞者一をいふこそ是まごは古の
御代に聞え高き事どもをこれかき出出て文
飭小書るあり

雖步驟各異文質不同莫不誓古以繩風猷於既類照今以補
典教於欲絶

此乃上件乃事どもを取總てるやまれるあり歩ハ徐
尔歩むるや驟は疾走ふるやまて政し世に代るる

随ひて寛まや急なるものあり何るを
歩五帝驟風猷を風教道德ありこそかくいつふるや
ちや云云

必しも上小舉ふる事ども悉くは當らばやども只漢人
の常小いふなる趣を文乃かざり小書るのみありこ
て如此言て下文の本を起るふものぞ

暨飛鳥清原大宮御大八洲天皇御世

此より下此天皇後諡天武の御事を申と依文あり洲字洲
也作ふるあり今ハ一本小あり

潜龍體元游雷應期

こはいよご儲君ふて坐まし、ほやを申せらる賛詞を

潜龍七海雷と易の言もて太子乃ろや小申せり。
雷は易に海雷震と有りて震為長子也い
へふより出ふり海字游也作ふハ誤也
聞夢歌而想纂業投夜水而知承基

此天津日嗣ちろ一々伝さるや純有しるや
夢歌の事ハ書紀小見えぬ漏れぬるべし投夜水
とは東國尔下已坐争として夜半尔伊賀の隠乃横河
小至坐しるやなるべし此時小廣さ十餘丈乃黒雲
ちりて天又わつりぬれ然異しやあちりて御自
へ賜ふ天下二小分きてちえりハみを得るあふ
る祥ありしや書紀小見えぬ
聞字開也作ハ誤
り今一本小依

然天時未臻蟬蛻於南山人事共洽虎步於東國

上は京師をのぐれ出て吉野山小入坐しるや下ハ道
よも人多小後ひ附奉て御威さかり尔ちり而して美
濃國小幸行し海やなり皆書紀尔見ぬ洽字延佳本尔
は給也作也それも何か交

皇興忽駕凌渡山川六師雷震三軍電逝

凌り歴也と註せり。
汎海凌山云云延佳本六師は六
軍あり下二句ハ皇軍のさかりなる所をいなり。
漢天子は六軍大國を三軍をいなり此はふ
数字を對ふとる乃ふりて六と三也小意をなし
杖矛舉威猛士烟起絳旗耀兵凶徒瓦解

上三句ハ御方其軍のさうりなり。下二句ハ淡海
の軍に敗れしさまなり。

未移^レ決^レ辰^ヲ氣^ヲ診^ル自^レ清^ム

是ハ仇速^{スミヤカ}小^ホ亡^ホびる。天下治まりしを云ふなり。決辰は、
子より亥まで一周乃日數^日十二あり。其を移さば、
ほどもちくはみやうなる意あり。診は妖氣なり。此惡
き氣去て清らかりぬなり。さて此診字諸本並
不誤て弥と作す。今々延佳が考ふよりて改免致。
乃放^チ牛^ヲ息^マ馬^ヲ愷^ト悌^ト歸^リ於^テ華^ノ夏^ノ卷^ノ旌^ヲ戢^シ戈^ヲ擗^シ詠^シ停^シ於^テ都^ノ邑^ニ。
放牛息馬とは、かゝ國の周武王が紂に勝て後、馬を

華山の南に歸し、牛を桃林の野に放て、再服^シ以^テ爲^シ也^ト。

を志し、故事あり。愷悌は軍勝する時乃樂なり。書

紀小イクサトケテ也訓^レ。愷悌字心得以、其故は、
之樂あり。愷悌字ふハ其義あり。愷悌字心得以、其故は、
いへふ。愷悌は多かき愷悌も、其義あり。愷悌字心得以、其故は、
然るに今愷樂を愷悌といへば、愷悌字に於て、彼
愷悌字、思ひ混へたる也。但し此を世ふたのべ
誤る。漢籍にも例あり。書紀にも、
然有り。漢籍にも例あり。書紀にも、

歲次大梁月踵夾鍾清原大官昇即天位。

初句ハ酉年といふ。大梁ハ十二次乃内の昴宿の次^下ふ
て、昴は二十八宿乃中、西^レ方^ノの星、西は酉方なり。此
已次句ハ二月をいふ。夾鍾ハ十二律の中乃二月の律

るればなり。踵ハ鍾不同ト。通ハ一書不例あり。さて書紀を考ふる。此天皇癸酉年二月癸未二十日御位即ギザレリ。

道軼軒后徳跨周王

軒后は漢國の黄帝といふ王。周王は文王武王をいふ。握乾符而摠六合得天統而包八荒。

乾符ハ天の吉端あり。六合ハ上下四方あり。天統ハ天の授らるる帝統なるを。八荒ハ八方に遠き國々あり。

乘二氣之正齊五行之序

二氣ハ陰陽をいふ。君の政は陰陽五行の

ほろろ正しくして。四時の氣候みづれどやいふ。漢人ハ常れ談する。

設神理以獎俗敷英風以弘國

神理ハ神妙の道理あり。獎俗とは勸免導きて風俗をよくなれをいふ。英風ハ英聖乃風教なり。

重加智海浩瀚潭探上古心鏡煒煌明覩先代

智海とは御智孔廣と大なるを海いふ。心鏡とは御心乃明らききを鏡いふ。浩瀚ハ廣大貌煒煌ハ光明貌なり。さて此おごは。此天皇孔凡その御うへを申て。次乃事を申さむ料あり。

於^コ是^ニ天皇^リ詔^シ之^ク。朕^レ聞^ク諸家之所^モ賣^ル帝紀及本辭既^ニ違^ヒ正實^ニ多加^シ虛^ニ偽^シ。

詔之の之字延佳本亦云作^カ記^カ。それもしし賣ハ齋
乃俗字なり云云延佳本亦ハ齋^カ作^カ記^カ。帝紀ハ下文
ハ帝皇日繼を何^カ云^ク同^クト云^ク御^ニ代^ニト云^ク天津日嗣を
記^シ奉^ル書^キあり書紀天武御卷の川嶋皇子等^レ修
撰^ル乃處^ニも^シ帝紀とあり推古御卷の皇太子乃修撰の
處又皇極御卷乃蘇我蝦蟇^ガ燒^ケ處^ニ也^ハ天皇
記^シ何^カ云^ク國史^{ナリ}也^ハい^ハ變^シて^ハかく帝紀天皇記^シい
る^ニ也^ハ古^ノの稱^{ナリ}なる^ニ也^ハ本辭ハ下文ハ先代舊辭と云

海^ノ中^ニ同^クト^クの蝦蟇^ガ燒^ケ處^ニ也^ハ國記といハ聖德太子
乃修撰の處也國記臣連伴造國造百八十部并公民等
本記^シ云^ク亦^ハ有^ル也^ハ是^レ何^カ云^クなる^ニ也^ハ川嶋皇子等^レ修
撰^ル乃^レと^クころ^ニ也^ハ上古諸事^{ナリ}也^ハある^ニは正^シと^クられ^ル也^ハ然
亦^ハ今^ハは舊事とい^ハ變^シて^ハ本辭舊辭と云^ク亦^ハ辭^ノ字^ニ
眼^ヲを^テ移^シて^ハ天皇の此事^{ナリ}也^ハ何^カ云^ク也^ハ一^ニ立^テ一^ニ大御意^ハ
也^ハ何^カ云^ク古語^{ナリ}不在^ス也^ハ何^カ云^ク也^ハ一^ニ出^テ也^ハ何^カ云^ク也^ハ
何^カ云^ク未^ダ行^ハ其事^{ナリ}矣^ハ也^ハ何^カ云^ク也^ハ此^レ記^シ乃^レ本^ノの起^ル也^ハ
演^ズも^レな^レは^ハ感^ズ也^ハ見^レ佐^シ一^ニ上^ニ件^ヲ乃^レと^クり^ハ乃^レみ^ル也^ハ
一^ニ文^トは^ハ異^ナる^ニ也^ハの^レ也^ハ。

當今之時不改其失未經幾年其旨欲滅

其失とはかの多加虚偽とある是なり其旨は正實の旨ちる當時虚偽多くなるといふもち不正實も全と滅びあるふ所とされ天の海乃ぞや廣き御智鏡のよき明もき御心もき辨へるもよきゆゑか分る故ふ今是時小改免正一かきばいよく虚偽おわくありゆゑて今幾ほおもなく正實の旨は滅びしむるむ物ぞやかかこ愁坐あり然る後同も正實の處をばちかざりありてふく漢をさふる虚偽の文をのみ重くとせざるはいくぞや斯乃邦家之經緯王化之鴻基焉

經緯とは國を知り悉くあるてえあむ物なる也此を織乃經緯の絲ふとて云あり鴻を大なり

故惟撰錄帝紀討覈舊辭削偽定實欲流後葉

是より詔命あり討覈を深く實と尋ねて考へ究むる

るやあり此一句殊小古學の要とあることかかふを看過しその後葉を後世なり欲字は撰錄乃上る在る文意なり

時有舍人姓裨田名阿禮年廿八為人聰明度目誦口拂耳勅心

裨田姓姓氏錄不見之延能本弘私記序を引く天鈿女命之後也云云書紀天武上御卷小如云地名見えたり大倭國の國

えり。今漆上郡小柳田村彼地より出づる姓あり。

一度目誦口とは一あひ見うる書をバヤリて空ふう

かべくよく諷誦をいふ拂耳勅心も一うひ聞うるお

をば忘ゆくうやるきをいふ廿字延佳本より二十

同しうやるれども此何より多くハ一句四字

ちれバ此句も然ふべし故今は舊本ふりぬり

即勅語阿禮令誦習帝皇日繼及先代舊辭

勅語を天皇於大御口抄り詔ひ属はあり有司如

一先又書ふかきるゆやをも多し勅を傳へ宣

やばいなりどもは勅語とはいほはかくて此はあ

か殊ある意も有べきり其ち下おいふるし令誦習を

は舊記乃本をばあれてそくに誦うかべく其語を

ばく口あるれ志むるをいふなり抑直尔書ふは撰録

免て先かく人乃口お移して抄りく誦習は一先

賜もは語を重みしあやあが故なり此事既尔一乃卷

ふ云ふが如し書紀纂疏弘仁私記序尔天皇勅阿禮

使習帝王本紀及先代舊事紀何るは此乃文を見誤

子て舊辭を舊事紀にし云ふありゆ免今世は

あ思ひおかへそ彼題號を此私舊事紀乃

記乃文を取てそ抄りぬり天

然運移世異未行其事矣天

天皇崩坐て御世かほりふられは撰録乃事果一行ハ

口ふ乃るれりあり。
伏惟皇帝陛下得一光宅通三亭育。

皇帝ハ撰者の當代那良宮御宇天津御代豊國成姫天

皇後御諡を申せり得一老子は老子尔天得一以清地得

一以寧王侯得一以為天下貞と云ふよりいふを

光宅とは天下を凡て家とほる意をオホキニラ

ル也光宅也いふも訓也古文尚書堯典

云ふより出通三とは天地人乃三才尔通なり亭育

は本ハ亭毒也云ふを通ほりて如此も云ふへ民

を化育治るる也なり是も始は老子尔亭之毒之也

此の有り亭字を舊印本に亭字作ふは誤なりさて此より又例乃漢語

御紫宸而德被馬蹄之所極坐玄扈而化照船頭之所逮

紫宸も玄扈も天皇此御處をいふ玄扈ハ黄帝が洛水

乃上ちる玄扈といふ石室小坐より一時ハ鳳凰圖を

含来て授き給也云々舊印本に宸を震ふ船を

胎尔誤

日浮重暉雲散非烟

浮り出ふなり重暉とは光暉の明らきをいふ雲云

云々は雲此如くありて雲に何れ煙乃如くは

烟尔何々々虚空小見ゆるをいふ。いほゆる慶雲なり。
連柯并穂之瑞史不絶書列烽重譯之貢府無空月。

連柯といはゆる連理の樹なり。并、其莖は異ありして

穂乃一尔あひゆる稲よといはゆる嘉禾なり。下二句

外、外國よりあわふ貢使乃月々に絶間あるを云て列

烽ハ常に烽を列ね構へおきて防をゆる國々重譯ハ

譯を重ね交へは言語乃通えぬ遠き國々なり。さて然

依國々今皆朝貢はとなり。府々その貢物を納め

府倉あり。列烽と云ふる其貢使乃来りて時尔あひ

るいひとあひゆるは文選ちる類延年曲水詩序

尔類莖素毳并柯共穂之瑞史不絶書棧山航海踰沙軌

漠之貢府無空月列烽千城通驛萬里穹居之君内首稟

朔并服之箇迴面受吏之令る文を依りしかく書

依ちれば此文よそ心得べきなり。凡そ

文選中の文を取らる處を以て多かり

可謂名高文命徳冠天乙矣。

文命ハ夏禹天乙は殷湯あり。並戎國の古孔名高子王

をもちり。此よそハ當代をほ免奉れる文よそ例の次

乃事を申さむ料あり。

於焉惜舊辭之誤忤正先紀之謬錯。

これより後にく正しく此記を撰録し免賜ひし事茲

演し中尔此一節ハ其大御志をいなり。謬字繆

又其作家本も何れ同く評せり。

以和銅四年九月十八日詔臣安萬侶撰錄裨田阿禮所誦之
勅詔舊辭以獻上者

くく此文乃さる哉思ふに阿禮此時存^イ在^ケ已^ニ也見
えつめ。此人^イ上^ル文^ニ尔^ル廿^ハ八^歳と何^レの清^御原^御
年^ニ尔^ルは世^ノ乃^ハ何^レの年^ニちり^キをむ^クは^ハか^ノの今^ノ和^銅四
多^クを^レれ^ドと^ハ姓^ノと^ハ彼^ノを^レ元^年に^テ有^ラむ^クは^ハ六^十八^歳尔^ル
何^レと^ハ行^ハは^シぬ^ク事^ニ尔^ルは^ハ天皇^崩ま^シる^ニ思^ハふ^ニは^ハ六^十八^歳尔^ル
未^ダ如^クの^ニ乃^ハ事^ニ尔^ルは^ハ天皇^崩ま^シる^ニ思^ハふ^ニは^ハ六^十八^歳尔^ル
崩^乃年^ニ尔^ルは^ハ五^十三^歳なり^キか^クて^ハ彼^ノ清^御原^御
朝^御世^ニ尔^ル誦^ヒお^シむ^クは^ハ帝^紀舊^辭ハ^ハ此人^乃口^ニ尔^ル
これ^ニを^レ今^ノ安^万侶^朝臣^ハ詔^命仰^セて^ハ撰^録し^テ免^賜ふ
なり^キと^ハそ^ノ以^テハ^ハ舊^辭と^ハの^ミ云^テ帝^紀を^レい^はざる^ハは

舊辭^ハ尔^ルに^テ免^賜ふ^ニ文^を省^クる^ニあり^キ。又^ハ口^ニ尔^ル誦^ヒ習^ハへ
紀^ハも^ハ其^ノ誦^ヒ乃^ハ内^ニ尔^ルあ^レバ^ハ別^ルは^ハ帝^紀を^レ免^賜ふ^ニは^ハ舊^辭
云^ハま^シる^ニさ^レる^ニ也^ハと^ハなり^キ。帝^紀を^レ免^賜ふ^ニは^ハ舊^辭
乃^ハか^クて^ハ謂^フは^ハ何^レと^ハ又^ハ此^ノあ^シし^キか^ク勅^詔の^ハ
何^レを^レ以^テ思^ハへ^ハは^ハ也^ハ此^ノ勅^詔を^レ唯^ニ尔^ル事^を詔^ヒ属^ス
の^ミり^ハあ^レて^ハ彼^ノ天皇^武の^ハ大^御口^ニ尔^ル。此^ノ舊^辭
を^レ誦^ヒ坐^シて^ハ其^ノを^レ阿^禮尔^ノ聽^取し^テ免^賜ふ^ニは^ハ大^御言^此
ま^シる^ニ誦^ヒ習^ハへ^ハは^ハ免^賜ふ^ニは^ハ大^御言^此
は^ハ此^ノ處^ニあ^レは^ハ殊^ニ尔^ル勅^詔乃^ハ也^ハと^ハわ^カる^ニは^ハ何^レの^ハ
ち^リり^ハさ^レれ^ドと^ハ餘^ニ乃^ハ古^書と^ハも^ハち^リと^ハ勅^詔と^ハは^ハ大^御口^ニ
上^リは^ハ唯^ニ其^ノ意^を注^スし^テ尔^ルは^ハ然^ルに^テは^ハ大^御口^ニ
此^ノ記^ハ本^ニ彼^ノ清^御原^宮御^宇天皇^ノ可^畏と^ハ大^御親^撰

びある心定先賜ひ誦しうか唱へ賜ふる古語ありあ
き安世ふるあらしむゆくいゆも貴き御典あぞ何をき
ふ然るわ御世かありて後彼御志紹坐御舉れをか
あしく安さばあり貴き古語も阿禮が命ゆもろとも
ふ亡はるぬまゝに歡きかむあむかしにいと天神國
神の靈幸ひ坐て和銅の大御代ふ此御撰録ありて今
此現ふ此御典乃傳はり來たることゆよ物学ひせむ人
頂よ捧持て天神國神又二御代の天皇尊天武又稗田
老翁太朝臣此恩頼を莫忘そゆ記の本を起し賜ひ
ありし其撰録し元明天皇の和銅元年も申年を
記かくくわきなき宣長此傳を著し初む今の太
御代乃明和元年し又申年ふあり
ゆることゆをちむ竊ふ部しあ思ふ

謹隨詔旨子細採撫

此より安万侶朝臣撰録のさまを演説れしあり

然上古之時言意並朴敷文構句於字即難

上古之時云々此文を以見せば阿禮が誦ふ語乃ゆ
古かりきむゆや知居れて貴し敷文ゆ構句とは二ふ
はあし共ふる文よかきうゆを云あり於字即
難とは文ふ書取かゆをゆ多文ゆ漢文なればあり
後世乃如く假字文ありむはいはある古言も書取
りて事を記し例上代乃ゆをれば意も言も共ふいを

已因訓述者詞不逮心

古々々々。當時の^{ソノ}時は異なるが多^カ如^ク終^ルべ^シ。漢文
あはれ^カき取^ルぐ^レかめ^ニむ^コる^ニ宜^シなり。上古乃ハ言の
朴^クなりや^ハ何^レを^シて^ハ思^ハふ^レべ^シ。奥^カあり^キ理^リ多^クあり
ふ^レは^ハさ^ラふ^レあり^キなり。然^レる^ニも^ハか^の漢文^ヲ意
其^レ旨^ヲゆ^ク異^ナる^ニも^シ可^シ。此^ノ文^ヲよ^ク味^ヒて^ハ撰
者^ノい^ッて^ハ上^ノ代^ノ意^言を^違へ^ド誤^ル所^ト勤^クし^テ慎^ム
あれ^キる^ニほ^カを^おし^はら^るべ^クは^シる^ニ書^紀なる^レの^如
漢文をい^ふく^かざ^りと^ゆわ^る上^ノ代^ノ意^言に疎^カる^ニべ
き^レは^ハな^らず^ニも^シや^り終^ルべ^シ。此^ノ記^乃ぞ^ハか^のゆ^えに^ハあ
ある^ニ物^ヲを^況や^{漢文}を^ゆめ^くか^のざ^りふ^レむ^ル
は^いり^ての^正實^ノの^まく^りは^書取^ル所^トる^ニべ^シ。

已ハ^ハ盡^クの^意あり。書^紀神^代卷^ノノ^鏡既^ニ破^ク碎^ク繼^ニ躰^ク卷^ノノ^全
布^流雪^乃出^雲風^土記^ル既^ニ儀^ニ之^レ因^テ訓^述と^ハ字^孔訓
を^取用^スひ^て古^語を^記せ^る然^レゆ^えに^ハい^はゆる^ニ真^字なり。
詞^々その^因訓^述と^ゆわ^る文^ナり^キ心^ヲ古^語の^意あり。^意字^ヲ
か^の心^ヲし^て心^ヲし^て云^ハふ^ニ上^ノ文^ノ近^クを^處ル^ニ意^字あり
故^リに^さげ^らる^ニあり^キ。凡^レて^ハ此^ノ序^文同^字を^用ふ^ニて^ハ嫌
^ト然^レ言^フと^ハは^世間^ノある^ニ舊^記と^ハの^例を^見ゆ^ル。
悉^ク之^レ字^孔訓^を以^て記^スる^ニあ^は中^ノい^はゆる^ニ借^字を
ゆ^ぐ多^クて^ハ其^レ其^ノ字^孔義^異なる^ニが^ゆえ^ニ語^ノの^意ま
と^ハ得^レ及^ビ至^ル所^トなり。又^思ふ^ニは^此記^キる^ニは
と^も何^レも^ハ若^シ然^レ序^文述^字ハ^ハブレ^バ何^レ訓^を心
を^撰者^ノ意^{あり}。さ^らに^ハ文^乃義^ヲ悉^クし^て訓^を因^テ述^スむ

此の如く古語を違へしと思ふ心乃まゝに文乃ゆ
きやぐに記がさき云ふあり。如此もあやむりや思
ひあはれゆるゆゑ若し上ふいなる意ありむりハ記中ふ
借字をば書まじさきやむりなるにかな借字多きれ
ばあり。然るに借字を多く用ふハ古乃かたなぐ
の世乃ありむを。殊ル地名、地名、物名、物名、中
に改むるあはれさる記さきあし。何れはさきやぐ
あはれさる記さきあし。何れはさきやぐ

全、以、音、連、者、事、趣、更、長、

音とは字音を假て書ゆあて。即假字あり。事趣を連ぬ
る文面をいふあり。然言ろく、ゆゑ全く假字のみを
以書るは字數のこゝなく多くなりて。かの因訓述
依ル比おれば其文更爾長しやなる。又かの後ふら
るもては。此も連者をツラヌレバ
之訓て。撰者の思ひ變るるあり。

是、以、今、或、一、句、之、中、交、用、音、訓、

こは上文ふある如く。悉く訓ふ因て真字書に依る。
中ふ借字多くて。語の意さとりがさく。ゆりとしてほこ
全く假字書ふあさる。文ささく長く。おめて煩は
し。故是以今ハ宜しきやぐをはかめて。二物をおじへ
用ゆやちる。

或、一、事、之、内、全、以、訓、錄、

全く真字書ふさき。古語や言も意も違へる。さきやぐと。
字のまゝに訓免ば。語を違へる。意ハ違はる。其

古語ハ人皆知て訓誤ニするはあはれ又借字ハ
て意ハ違へども世ハあま細く書るれ人皆辨へ
まば字ハ惑をゆじをせしめは假字書ハ長を故
ル簡約ツマヤカなる真字書の方を用ゆるなり一事といひ一
句といゆるハあはれ文をかくあるのみあり

即辭理チ見ガキハ以ラ注ラ明ス意ヲ

理ハ意ヲ明ス即チ明ス意ヲと何る意ヲれありハ巨ガキハ字ハ不可也
と注して難と同一く用ひしなり書紀釋尔引ふは難を作正と記
中チ種チ之チ注チある中に辞理を明カし多しはいつく
統チふして只訓チるチさチるチ教へるチ源チのみ常チ多チりチれ

ば此チハ文チ乃チ乎チに心得チてハ少チ一チ違チぬべしハ大ハ概カ
ルチろくチ海チをチあチるチべチきチありチまチ訓チぶチ處チをチ教へチるチは
乃チ文チをチ助チをチいチはチ辞チとチはチ字チをチ理チとチ意チとチわ
訓チをチ心チ得チてチあチるチさチらチ訓チ立チ云チ多チ志チとチあチるチあチらチ訓チ
意チをチ教へチるチはチ假チ令チバチ訓チ立チ云チ多チ志チとチあチるチあチらチ訓チ
をチ教へチるチはチ假チ令チバチ訓チ立チ云チ多チ志チとチあチるチあチらチ訓チ
まチばチ明チ意チとチ云チたチるチれチどチ又チ多チくチ某チくチ字チ以チ音チと
あチるチハチ假チ字チとチ云チたチるチれチどチ又チ多チくチ某チくチ字チ以チ音チと
がチこチりチるチべチしチあチるチかチくチ
ふチ當チ記チるチべチしチあチるチかチくチ

况チ易チ解チ更チ非チ注チ

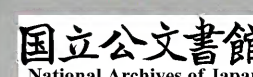
况チ字チハチろくチ也チふチ意チをチしチてチ輕チくチ見チべしチ字チ書チルチ發チ語チ之チ
非チ字チハチ不チのチ意チハチ用チひチるチありチ此チ例チ本チ文チ又チ書チ紀チるチ也チ
もチもチあチらチしチてチ全チ篇チ對チ句チなチらチばチ此チ也チ然チるチべチきチもチ也チ

あるに意ハ上と對して字の對セザハ易字の上は
二字更字の上り下りに一字ありしが共又脱して
やあつむ

亦於姓日下謂玖沙訶於名帶字謂多羅斯如玖之類隨本不
改

此文於姓玖沙訶謂日下於名多羅斯謂帶也あつむ
来こやちり其故を玖沙訶尔日下多羅斯尔帶と本よ
て書来せりしに今も改め其字を記しと云
義あらばなり如玖之類とはおろろ長谷春日飛鳥三
技なごりちかそのあつむ乃みぬと地名神名

多々は古来書なり依字のあつむ記とあり然るハ
神及人名地名姓氏などの文字又假字なり也凡て古
来乃をば用ひてこやちり改め伊邪那岐命
を伊弉諾尊須佐之男命を素盞鳴尊なり書せり志
かを後世人も字なり書紀よりみれば是を
うらまひせり字なり心得て玖記の如く伊邪
那岐命須佐之男命なり書をばつむて異なり
如く思ふなりハむごやちり餘乃古書どもを
を見よ何れも大か玖記の字ハ似るを書紀
の字なりいふ興る此記又餘の古書なり也
海久米川侯なり云地名を書紀のみに出
るや書せりなり乃地名今世も彼は来目川
古より今も當地なり書来せり字もみち
記なり
も同なり書なり書なり書なり書なり書なり
も同なり書なり書なり書なり書なり書なり
大抵所記者自天地開闢始以訖于小治田御世
こは全部の始終をいつり次とは巻に此始終をいつ



故天御中主神以下日子波限建鷯草葺不合尊以前為上卷

神代を以て一卷とせむは也やゆりさるるべきものか

已葺字延在木尔葺と作同ト云あり命尔尊字を

書依之也然也此記尔は美許登尔は尊卑さか

古書也にも天皇など乃大御名りも多とわ命字を

書已かくて書紀りは尊字也命字を分用至貴日

尊自餘日命と自注あれは尊字ハ彼撰者の新尔用初

也れあるる也思河也又日子日如尔彦姬字を書

し書紀より始まれり也見えく此記る也りは一もか

さそをかりられり也思尔今此文り尊字を書依

疑ひなきりあれ也故以序をちる疑ひく後人の偽

作也物ぞ也云人もあれ也其の中ふかろ物

えちり物ぞく思もに大雀を舊印尔大鷯鷯作

も書紀は目される後人のひがらるれ也誤生るも真

福寺本より命字を假りられや正しかり又思ふ次

文尔伊波礼毘古尔天皇品陀は御世大雀ふも皇

帝小治田尔は大宮也各異尔申せれ如く此もあも色

色はあへく書依りて必しもあしかり美許登但一近

也云尔此字を用ひるる也非依り也河も年

さほ也見得るりといふ上野國多胡郡の古き碑文此

寫しを見ゆるも石上麻呂公を石上尊藤原史公を藤

原尊也書已彼碑以此同ト和銅四年小建也るなり然

是也そのかみ既く尊人なは如此称る也は可なりあ

とまむかし當り然れがあめ美許登也るふ

く美許登小用ひて至貴を小書也あはるるべし然依

神倭伊波禮毘古天皇以下品陀御世以前為中卷大雀皇帝

以下小治田大宮以前為下卷

天皇御世皇帝大宮を文をかくくあやせざるあり。
世と大宮を對せたり。御して品陀御世まを中卷
とし大雀御世より下卷せざるはあつたり
来坊より思へば少くハ意あるり見ゆれども
短きを以て思へば少くハ意あるり見ゆれども
然るは阿品陀御世を下卷ふいふは又下卷長
くなりて同く御世を小治田御世を以てせら
乃ち先なるを也。御撰録を阿禮が誦習ひ移るを
先づくゆを也。御撰録を阿禮が誦習ひ移るを
録されども其ハ女也清御原宮天皇此勅語をれば小
治田推の御次岡本官天皇明ハ彼天皇の大御考命オホミコトシラふ

坐可故お憚て其御世まを及ほし賜ハづり也
あべし。此るゆゑろばへ記中にも見ゆり。
多しをあまの御子の中ふも御子の御名をば抑此
諱て坐岡本官治天下之天皇とあるゆれなり。
記乃しゆゑ也撰者此新為を加ふゆゑかの阿禮
が誦習へる可づり也考はゆゑ是等も志され
あり。

并録三卷謹以獻上臣安萬侶誠惶誠恐頓首頓首

三卷せざるもやハるがほをうに小従つるあり。

和銅五年正月二十八日

去年此九月十八日詔命を奉りてよりあづ四箇月

餘^アあして業^イを終^スる。い^ハか^ク速^クありし^ハも^ハか^クの
阿禮^アが^カ詔^ノ乃^マま^クを^レ録^スせ^ル所^ニみ^して^ハ新^ニ為^スを^レ加^フべ^シ
そ^レの^ハ乃^ハ乃^ハの^ハの^ハが^ハゆ^キを^レち^ルべ^シ。

正五位上勲五等太朝臣安萬侶 謹上

勲五等とは尋常の位階のほかに勲位とて一等あり

十二等おぞ何りて官位令小見えつるは義解より依ふ

五等は正五位に相当なり。勲位は武功よりあり太朝臣

ハ白檮原宮御宇天皇の御子神八井耳命に御末あり

委さ事ハ彼御段云依し安萬侶朝臣ハ誰子といふ

後^ハ志^スれ^タ也。書紀天武卷多朝臣品治^ハ人見え^ル人^ハ

て位ハ小錦下^ニありて持統卷十年八月庚午朔甲
午以直廣壹授多朝臣品治并賜物褒美元從之功與堅守
關事とあり此品治朝臣乃子と云ふべしと思はる。さ
て此氏天武卷朝臣空なりて後ハ多朝臣品治^ハ見
えつる持統卷もしと臣とあるハい^ハの^ハ直廣壹ハ
天武御世小定^スれ^ルも^ハ四十八階乃第十^ニ當^ル位
也。續紀三卷小慶雲元年正月丁亥朔癸巳正六位下太
朝臣安麻呂授從五位下。此人此始五卷小和銅四年
四月丙子朔壬午正五位下太朝臣安麻呂授正五位上
正五位下小叙^スる^ハし^テ也^ハ。六卷小靈龜元年正月
前^ニ見^スる^ハ漏^ルる^ハな^リ依^テ。甲申朔癸巳叙從四位下七卷同二年九月乙未為氏
長九卷小養老七年七月庚午民部卿從四位下太朝臣
安麻呂卒。民部卿^ハ任^スる^ハし^テ也^ハ。前^ニ見^スる^ハ也^ハ。享年見^スる^ハ也^ハ。

弘仁私記序三統理平延喜六年日本紀竟宴歌序攝
直幹天慶六年同竟宴歌序又忌部正通口決カ書
紀在舍人親王と二人詔を奉タテマツりて撰シりて
おは親王一柱乃撰シりて見スる安麻呂朝臣乃シて
小神名帳小大和國十市郡小社神命神社あり或云
以神社在ル多社東南今稱木下社傳云祭安麻呂
式今按シる彼社寺四社乃下ル已上四神太社皇
子神也
は決シて誠ニ安麻呂朝臣ノ人ト祀スむるニ舊印本
以謹上二字ハナシ。

大御代之繼繼御世御世之御子等

天之御中主神

高御產巢日神 別名高木神

神產巢日神

此三柱神者並獨神成坐而隱身也

宇麻志阿斯訶備比古遲神

天之常立神

此二柱神亦獨神成坐而隱身也

上件五柱神者別天神

國之常立神

○ 豐雲野神

以二柱神亦獨神成坐而隱身也

宇比地邇神

須比智邇神

角杵神

活杵神

意富斗能地神

大斗乃辨神

淤母陀琉神

阿夜訶志古泥神

伊邪那岐神

伊邪那美神

大上伴自國之常立神以下伊邪那美神以前并

稱神世七代

上二柱獨神各云一代次雙
十柱各合二柱云一代也

水蛭子

淡鳴

右不入御子之例

淡道之穗之狹別嶋

伊豫之二名鳴

以鳴者身一而有面四每面有名伊
豫國謂愛比賣讚岐國謂飯依比古

粟國謂大宜都比賣
土左國謂建依別

隱伎之三子嶋 亦名天之忍許呂別

筑紫嶋 此嶋亦身一而有面四每面有名筑紫國謂
白日別豐國謂豐日別肥國謂建日向日豐

久士比 淫別熊
曾國謂建日別

伊伎嶋 亦名天比登都柱

津嶋 亦名天之狹手依比賣

佐度嶋

大倭豐秋津嶋 亦名天御虛空豐秋津根別

右八嶋合云大八嶋國

吉備兒嶋 亦名建日方別

小豆嶋 亦名大野手比賣

大嶋 亦名大多麻流別

女嶋 亦名天一根

知訶嶋 亦名天之忍男

兩兒嶋 亦名天兩屋

右六嶋

上件嶋合十四嶋

大事忍男神

石土毘古神

石巢比賣神

大戸日別神

天之吹男神

大屋毘古神

風木津別之忍男神

大綿津見神 海神也

速秋津日子神 水戸神也

速秋津比賣神 同上

沫那藝神

沫那美神

頰那藝神

頰那美神

天之水分神

國之水分神

天之久比奢母智神

國之久比奢母智神

右八柱者速秋津日子神速秋津比賣神二柱因河海持分而生神

志那都比古神 風神也

久久能智神 木神也

大山津見神 山神也

鹿屋野比賣神 亦名野推神野神也

○古事記傳二

○二十八

天之狹土神

國之狹土神

天之狹霧神

國之狹霧神

天之閻戶神

國之閻戶神

大戸感子神

大戸感女神

右八柱者大山津見神野椎神二柱因山野持別而生神

鳥之石楠船神

亦名天鳥船神

大宜都比賣神

火之夜藝速男神

亦名火之炫跟古神亦名火之迦具土神 火神也

正鹿山津見神

淤滕山津見神

奧山津見神

闇山津見神

志藝山津見神

羽山津見神

原山津見神

戶山津見神

右八柱者於所殺迦
具土神之體所成神

金山毘古神

金山毘賣神

波邇夜須毘古神

波邇夜須毘賣神

彌都波能賣神

和久產巢日神

豐宇氣毘賣神

上件伊邪那美神未神避坐以前所共生坐也

泣澤女神

坐香山之畝尾木本

石折神

根折神

石筒之男神

甕速日神

樋速日神

建御雷之男神

閻淤加美神

閻御津羽神

亦名建布都神亦名豐布都神
下曰伊都之尾羽張神之子

右八柱者斬迦具土神因御刀所生神也

大雷

火雷

黑雷

拆雷

若雷

土雷

鳴雷

伏雷

右八雷神者於伊邪那美神之神避坐御體所成也

衝立船戶神

道之長乳齒神

時置師神

和豆良比能宇斯能神

道侯神

飽咋之宇斯能神

奧疎神

奧津那藝佐毘古神

奧津甲斐羅神

邊疎神

邊津那藝佐毘古神

邊津甲斐辨羅神

右十二柱者因脫著御身之物所生神也

八十禍津日神

大禍津日神

右二柱者因夜見國之污垢而所成神也

神直毘神

大直毘神

伊豆能賣神

右三柱者將直禍而所成神也

底津綿津見神

底筒之男命

中津綿津見神

中筒之男命

上津綿津見神

上筒之男命

右三柱綿津見神者阿曇連等之祖神也底筒之

男中筒之男上筒之男三柱者墨江三前大神也

天照大御神

月讀命

建速須佐之男命

上件十四柱神者因滌御身所生坐神也

多紀理毘賣命

亦名奧津嶋比賣命
坐胸形之奧津宮

市寸嶋比賣命

亦名狹依毘賣命
坐胸形之中津宮

多岐都比賣命

坐胸形之邊津宮

右三柱者與天照大御神誓坐時所生坐神也

八嶋士奴美神

母足名推神女櫛名田比賣

大年神

母大山津見神女神大市比賣

宇迦之御魂神

母同上

須勢理毘賣命

大國主神之嫡妻

大國御魂神

母神活須毘神女伊怒比賣

韓神

母同上

曾富理神

母同上

白日神

母同上

聖神

母同上

大香山戶臣神

母香用比賣

御年神

母同上

奧津日子神

母天知加流美豆比賣

奧津比賣神

亦名大戶比賣神
母同上
龜神也

大山咋神 亦名山末之大主神 母同上

庭津日神 母同上

阿須波神 母同上

波比岐神 母同上

香山戶臣神 母同上

羽山戶神 母同上

庭高津日神 母同上

大土神 亦名土之御祖神 母同上

若山咋神 母大氣都比賣

若牟神 母同上

若沙那賣神 母同上

彌豆麻岐神 母同上

夏高津日神 亦名夏之賣神 母同上

秋毘賣神 母同上

久久牟神 母同上

久久紀若室葛根神 母同上

布波能母遲久奴須奴神 母大山津見神女木花知流比賣

深淵之水夜禮花神 母淤迦美神女日河比賣

淤美豆奴神 母天之都度閉知泥神

天之冬衣神 母布怒豆怒神女布帝耳神

大國主神

亦名大穴牟遲神 亦名葦原色許
男神 亦名八千矛神 亦名宇都
志國王神 母刺國大神 女刺國若
比賣 兄弟八十神坐

木俣神

亦名御井神
母稻羽之八上比賣

阿遲鉏高日子根神

母多紀理毘賣命
謂迦毛大御神

高比賣命

亦名下光比賣命
母同上

事代主神

母神屋楯比賣命

鳥鳴海神

母八嶋牟遲神女鳥耳神

建御名方神

國忍富神

母日名照額田毘道男伊許知迹神

速甕之多氣佐波夜遲奴美神

母葦那陀迦神亦
名八河江比賣

甕主日子神

母天之甕主神女前五比賣

多比理岐志麻流美神

母淤加美神女比那良
志毘賣

美呂浪神

母比比羅木之其花麻豆美神女活
玉前五比賣神

布忍富鳥鳴海神

母敷山主神女青沼馬沼神
比賣

天日腹大斜度美神

母若晝女神

遠津山岬多良斯神

母天狹霧神女遠津待根神

正勝吾勝勝速日天之忍穗耳命

天之菩卑命

天津日子根命

凡川内國造額田部湯坐連

馬來田國造道尻岐開國造周芳國造倭淹
知造高市縣主蒲生稻寸三枝部造等之祖

活津日子根命

熊野久須毘命

右五柱者與速須佐之男命宇氣比坐時所

成坐神也

建比良鳥命

出雲國造无邪志國造上菟上國
造下菟上國造伊自牟國造津嶋
縣直遠江國造等之祖

天火明命

御母高木神御女萬幡豐秋津師比賣命

天邇岐志國邇岐志天津日高日子番能邇邇藝命

御母同上

火照命

御母大山津見神女神阿多都比賣亦名木
花之佐久夜毘賣 隼人阿多君之祖

火須勢理命

御母同上

火遠理命

亦御名天津日高日子穗穗手見命
御母同上

天津日高日子波限建鷄菅草菅不合命

御母綿津見神女豐玉毘賣命

五瀬命

御母綿津見神女玉依毘賣命

稻氷命

御母同上

御毛沼命

御母同上

○ 神倭伊波禮毘古命

後御謚神武天皇

亦御名若御毛沼命亦御名豐御毛沼命
御母同上坐畝火之白檮原宮治天下也
御年百三十七御陵在畝火山之北方白檮
尾上

多藝志美美命

伎須美美命

右二柱御母阿多之小檮君妹阿比良比賣

○ 日子八井命

茨田連手嶋連之祖

神八井耳命

意富臣小子部連坂合部連火君
大分君阿蘇君筑紫三家連雀部
臣雀部造小長谷造都祁直伊余國造科野國
造道奧石城國造常道仲國造長狹國造伊勢
船木直尾張州羽
臣嶋田臣等之祖

○ 神沼河耳命

後御謚綏靖天皇

又稱建沼河耳命坐葛城高岡宮治天下也
御年四十五御陵在衛田岡
右三柱御母美和之大物主神女比賣多多良
伊須氣余理比賣命

○ 師木津日子玉手見命

後御謚安寧天皇

坐片塩浮穴宮治天下也御年四十九
御陵在畝火山之美富登
御母師木縣主之祖河俣毘賣

○ 常根津日子伊呂泥命

後御謚懿德天皇

大倭日子鉏友命
坐輕之境岡宮治天下也御年四十五
御陵在畝火山之真名子谷上

○ 師木津日子命

右三柱御母河俣毘賣之兄縣主殿延之女
阿久斗比賣

某命 伊賀須知之稻置那婆理之
稻置三野之稻置等之祖

和知都美命 坐淡道之御井宮

蠅伊呂泥 亦名意富夜麻登久迩阿禮比賣命
大倭根子日子賦斗迩天皇之妃

蠅伊呂行 同天皇之妃

御真津日子訶惠志泥命 後御謚孝昭天皇

坐葛城掖上官治天下也 御年九十三
御陵在掖上博多山上

多藝志比古命 血沼之別多遲麻之竹
別葦井之稻置等之祖

右二柱御母師木縣主之祖賦登麻和訶比賣
命亦名飯日比賣命

天押帶日子命 春日臣大宅臣栗田臣小野臣
柿木臣壹比葦臣大坂臣河那

臣多紀臣羽栗臣知多臣牟那臣都怒山臣伊
勢飯高君壹師君迩淡海國造等之祖

大倭帶日子國押人命 後御謚孝安天皇

坐葛城室之秋津鳴宮治天下也 御年百二
十三 御陵在玉手岡上

右二柱御母尾張連之祖奧津余曾之妹余曾
多本毘賣命

大吉備諸進命

大倭根子日子賦斗邇命 後御謚孝靈天皇

坐黑田廬戶宮治天下也 御年百六
御陵在片岡馬坂上

右二柱御母大御父天皇之御姪忍鹿比賣命

大倭根子日子國玖琉命 後御謚孝元天皇

坐輕之坂原宮治天下也 御年五十七
御陵在劔池之中岡上

御母十市縣主之祖大目之女細比賣命

千千速比賣命

御母春日之千千速真若比賣命

夜麻登登母母曾毘賣命

日子刺肩別命

高志之利波臣豐國之國前臣五百原君角鹿海直等之祖亦名大吉備津日子命吉備上道臣之祖

比古伊佐勢理毘古命

倭飛羽矢若屋比賣命

右四柱御母意富夜麻登久迹阿禮比賣命

日子寤間命

針間牛鹿臣之祖

若日子建吉備津日子命

吉備下道臣笠臣等之祖

右二柱御母蠅伊呂孺

伊那毘能大郎女

大帶日子於斯呂和氣天皇之妃

伊那毘能若郎女

同天皇之妃

大毘古命

少名日子建猪心命

若倭根子日子大毘毘命

後御謚開化天皇

坐春日之伊邪河宮治天下也御年六十

三御陵在伊邪河之坂上

右三柱御母穗積臣等之祖内色許男命妹

内色許賣命

比古布都押之信命

御母内色許男命之女伊賀迦色許賣命

建波邇夜須毘古命

御母河内青玉之女波迹夜須毘賣

味師内宿禰

母尾張連祖意富那毘之妹葛城之高千那毘賣山代内臣之祖

建内宿禰

影日賣母木國造之祖宇豆比古之妹山下

波多八代宿禰

波多臣林臣波美臣星川臣淡海臣長谷部君等之祖

許勢小柄宿禰

許勢臣雀部臣輕部臣等之祖

蘇賀石川宿禰

蘇我臣川邊臣田中臣高向臣小治田臣櫻井臣岸田臣等之祖

平群都久宿禰

平群臣佐和良臣馬御檄連等之祖

木角宿禰

木臣都奴臣坂本臣等之祖

父米能摩伊刀比賣

怒能伊吕比賣

葛城長江曾都毘古

玉手臣的臣生江臣阿藝那臣等之祖

若子宿禰

江野間臣之祖

石之日賣命

大雀天皇之大后

葦田宿禰

黑比賣命

大江之伊邪本和氣天皇之妃

建沼河別命

阿倍臣之祖

比古伊那許志別命

膳臣之祖

御真津比賣命 御真木入日子印惠天皇之大后

比古由牟須美命

御母且波之大縣主由碁理之女竹野比賣

大筒木垂根王

讚岐垂根王

以二王之女五柱坐也

迦具夜比賣命

伊久米天皇之妃

御真木入日子印惠命

後御謚崇神天皇

坐師木水垣官治天下也
御陵在山邊道勾之岡上

御年百六十八

御真津比賣命

右二柱御母伊賀迦色許賣命

日子坐王

御母丸迹臣之祖日子國意祁都命之妹意
祁都比賣命

建豐波豆羅和氣王

道守臣忍海部造御名
部造稻羽忍海部丹波

之竹野別依網之阿毘古等之祖
御母葛城之垂見宿禰之女鷗比賣

大俣王

小俣王

當麻勾君之祖

志夫美宿禰王

佐佐君之祖

右三柱母山代之菴名名津比賣亦名菊幡
戶辨

曙立王

伊勢之品遲部君伊
勢之佐那造等之祖

菟上王

比賣陀君之祖

沙本毘古王

日下部連甲斐國造等之祖

袁邪本王

葛野之別近淡海

沙本毘賣命

亦御名佐波遲比賣伊久米天皇之大后

室毘古王

若狹之耳別之祖

右四柱母春日建國勝戶賣之女沙本大閻見戶賣

丹波比古多多須美知能宇斯王

水穗之真若王

近淡海之安直之祖

神大根王

亦名八瓜入日子王三野國造本巢國造長幡部連等之祖

水穗五百依比賣

御井津比賣

右五柱母天之御影神女息長水依比賣

兄比賣

弟比賣

比婆須比賣命

伊久米天皇之大后

真砥野比賣命

弟比賣命

朝廷別王

三川之穗別之祖

右四柱母丹波之河上之摩須郎女

○丹波美知能宇斯王之女伊邪河官段所舉三柱如上也然玉垣官段舉四女或

二女或三女而其名亦各有異同不合如
書紀則五女而其中亦有異者故玉垣宮
段所舉與此異其名
者今皆別在出馬

沼羽田之入毘賣命 伊久米天皇之妃

阿邪美能伊理毘賣命 同天皇之妃

兄比賣

歌凝比賣命

○右四柱玉垣宮段散出而與伊邪河宮
段其名異者也

止代之大筒木真若王

比古意須王

伊理泥王

右三柱母袁祁都比賣命

泥能阿治佐波毘賣

如邇米雷王 母泥能阿治佐波毘賣

息長宿禰王 母丹波之遠津臣之女高材比賣

息長帶比賣命 後御謚神功皇后
帶中津日子天皇之大后

虛空津比賣命

息長日子王 吉備品遲君針間
阿宗君等之祖

右三柱御母葛城之高額比賣

大多牟坂王 多遲摩國造之祖

母河俣稻依毘賣

豐木入日子命

上毛野君下毛野君等之祖

豐鉏入日賣命

拜祭伊勢大神之官

右二柱御母木國造荒河刀辨之女遠津年魚目目微比賣

大入杵命

能登臣之祖

八坂之入日子命

沼名木之入日賣命

十市之入日賣命

右四柱御母尾張連之祖意富阿麻比賣

八坂之入日賣命

大帶日子淤斯呂和氣天皇之

伊玖米入日子伊沙知命

後御謚無仁天皇

坐師木玉垣宮治天下也御陵在菅原之御立野中

伊邪能真若命

國片比賣命

千千都久和比賣命

伊賀比賣命

倭日子命

右六柱御母大毘古命之女御真津比賣命

本牟智和氣命

御母沙本毘古命之妹佐波遲比賣命

印色之入日子命

大帶日子淤斯呂和氣命

後御謚景行天皇

坐纏向之日代官治天下也 御年百三十七
御陵在山邊之道上

大中津日子命

山邊之別三枝之別稻木之別
阿太之別尾張國之別三野之別

別吉備之石无之別許呂母之別高
巢鹿之別飛鳥君牟禮之別等之祖

倭比賣命

拜祭伊勢大神宮

若木入日子命

右五柱御母且波比古多多須美知能宇斯王
之女米羽洲比賣命

沼帶別命

伊賀帶日子命

右二柱御母米羽洲比賣命之弟沼羽田之入
毘賣命

伊許波夜和氣命

沙本穴太郎之別之祖

阿邪美都比賣命

嫁稻瀬毘古王

右二柱御母沼羽田之入日賣命之弟阿邪夫
能伊理毘賣命

袁邪辨王

御母大筒木垂根王之女迦具夜比賣命

落別王

小月之山君三川
之夜君等之祖

五十日帶日子王

春日山君高志池君
春日部君等之祖

伊登志別王

右三柱御母山代大國之淵之女葎羽田乃辨

石衝別王 羽咋君三尾君等之祖

石衝毘賣命 亦名布多遲能伊理毘賣命

右二柱御母大國之淵之女弟荀羽田刀辨

擲角別王 茨田下連之祖

大碓命 守君大田君鳴田君等之祖

小碓命 亦御名倭男具那命 亦稱倭建命

倭根子命

神櫛王 木國之酒部阿比古

右五柱御母若建吉備津日子命之女針間之伊那毘之大郎女

若帶日子命 後御謚成勢天皇

坐近淡海之志賀高穴穗官治天下也御年九十五 御陵在沙紀之多他那美

五百木之入日子命

押別命

五百木之入日賣命

右四柱御母八尺入日子命之女八坂之入日賣命

品陀真若王

母尾張連之祖建伊那陀宿祢之女志理都紀斗賣

高木之入日賣命 品陀天皇之妃

中日賣命 同天皇之后

弟日賣命 同天皇之妃

和訶奴氣王

御母穗積臣祖建忍山垂振之女弟財郎女

豐戶別王

沼代郎女

右二柱御母妾

沼名木郎女

香余理比賣命

若木之入日子王

吉備之兄日子王

高木比賣命

弟比賣命

右六柱御母妾

豐國別王

日向國造之祖

御母日向之美波如斯昆賣

真若王

日子人之大兄王

右二柱御母伊那能大郎女之弟伊那能
能若郎女

大枝王

御母倭建命之曾孫須賣伊呂大中日子
王之女訶具漏比賣

大名方王

大中津比賣命 帶中津日子天皇之妃

右二柱母父王之庶妹銀王

押黑之兄日子王

母神大根王之女兒比賣
三野之宇泥須別之祖

押黑身日子王

母同王之女弟比賣
牟宜都君之祖

帶中津日子命

後御謚仲哀天皇

坐穴門之豐浦宮及筑紫訶志比官治天下也
御陵在河内惠賀之長江

御母伊玖米天皇御女布多遲能伊理毘賣命

若建王

御母弟橘比賣命

須賣伊呂大日子王

母飯野真黑比賣

迦具漏比賣命

母淡海之柴野入杵之女柴野比賣
大帶日子天皇之妃

稻依別王

犬上君建郎
君等之祖

御母近淡海之安國造之祖意富多牟和氣之
女布多遲比賣

建貝兒王

讚岐綾君伊勢之別登哀之
別麻佐首宮首之別等之祖

御母吉備臣建日子之妹大吉備建比賣

足鏡別王

鎌倉之別小津石代之
別漁田之別等之祖

御母山代之玖玖麻毛理比賣

息長田別王

御母一妻

杵俣長日子王

飯野真黑比賣

息長真若中比賣

品陀天皇之妃

弟比賣

又曰百師木伊呂辨比賣命

亦名弟日賣真若

香坂王

忍熊王

石二柱御母大江王之女大中津比賣命

品夜和氣命

品陀和氣命

後御謚應神天皇

亦御名大鞠和氣命 坐輕鳴之明宮治天下也 御年百三十 御陵在川内惠賀之藁伏

右二柱御母息長帶比賣命

額田大中日子命

大山守命

伊奢之真若命

大原郎女

高目郎女

右五柱御母品陀真若王之女高木之入日賣命

木之荒田郎女

大雀命

後御謚仁德天皇

大坐難波之高津宮治天下也 御年八十三
御陵在毛受之耳原

根鳥命

右三柱御母品陀真若王之女中日賣命

中日子王

伊和嶋王

右二柱御母三腹郎女

阿倍郎女

阿具知能三腹郎女

木之菟野郎女

三野郎女

右四柱御母品陀真若王之女第日賣命

宇遲能和紀郎子

八田若郎女 大雀天皇之妃

女鳥王

右三柱御母丸迹之比布禮能意富美之女宮
主矢河枝比賣

宇遲之若郎女 大雀天皇之妃

御母矢河枝比賣之弟袁那辨郎女

若沼毛二俣王

御母吹俣長日子王之女息長真若中比賣

速總別命

御母櫻井田部連之祖嶋垂根之女糸井比賣

大羽江王

小羽江王

幡日之若郎女

右三柱御母日向之泉長比賣

川原田郎女

玉郎女

忍坂大中比賣

登富志郎女

迦多遲干

右五柱御母迦具漏比賣

伊奢能麻和迦王

御母葛城之野伊呂賣

大郎子 亦名意富富杼王

三國君波多君息長君坂田君酒人君
山道君筑紫之米多君布勢君等之祖

忍坂之大中津比賣命 男淺津間若子宿祢天皇之后

田井之中比賣

田官之中比賣

藤原之琴節郎女

取賣王

沙彌王

右七柱母昨俣長日子王之女百師木伊呂
辦亦名第日賣真若比賣命

字非王

一書曰私斐王

母中斯和命

汗斯王

書紀曰彥主人王

母牟義都國造伊自牟良君之女久留比賣
命

大吸子

○右字非王汗斯王者記不載之令以
書紀釋所引上官記補焉

大江之伊那本和氣命

後御謚履中天皇

坐伊波禮之若櫻官治天下也 御年六十四
御陵在毛受

墨江之中津王

蝮之水齒別命

後御謚及正天皇

坐多治比之柴垣官治天下也 御年六十
御陵在毛受野

男淺津間若子宿禰命

後御謚允恭天皇

坐遠飛鳥官治天下也 御年七十八

御陵在河內之惠賀長枝
右四柱御母葛城之曾都毘古之女石之
比賣命

波多毘能大郎子

亦名大日下王

波多毘能若郎女

亦名長日比賣命

大長谷天皇之大后
右二柱御母日向之諸縣君牛諸之女
髮長比賣

目弱王 母男淺津間若子宿祢天皇之御女

木梨之輕王

長田大郎女

境之黑日子王

穴穗命 後御謚安康天皇

坐石上之穴穗官治天下也

輕大郎女 亦名衣通郎女

八爪之白日子王

大長谷若建命 後御謚雄略天皇

坐長谷朝倉官治天下也 御陵在河内之多治比高鷗 御年百廿四

橘大郎女

酒見郎女

右九柱御母意富本杼王之妹忍坂之大中津比賣命

白髮大倭根子命

坐伊波禮之甕栗宮治天下也 御陵書紀曰河内坂門原

若帶比賣命

右二柱御母都夫良意富美之女韓比賣

春日大郎女

意富祁天皇之后 御母書紀曰春日和珥臣深目女童女君

甲斐郎女

都夫良郎女

右二柱御母丸迹之許暮登臣之女都怒郎女

財王

多訶辨郎女

右二柱御母同臣之女弟比賣

市邊之忍齒王

御馬王

青海郎女

又曰忍海郎女亦御名飯豐王坐葛城忍海之高木角刺宮也右三柱御母葦田宿禰之女黑比賣命

意富祁命

後御謚仁賢天皇治天下顯宗天皇之後

袁祁之石巢別命

坐石上廣高宮治天下也御陵書紀曰埴生坂本後御謚顯宗天皇治天下仁賢天皇之前坐近飛鳥宮治天下也御陵在片岡之石坏岡上御年三十八右二柱御母書紀曰畿臣女萸媛

高木郎女

財郎女

久須毘郎女

手白髮郎女

橘之中比賣命

小長谷若雀命

表本杼天皇之大后建小廣國押楯天皇之后後御謚武烈天皇

坐長谷之列木宮治天下也
御陵在片岡之石坏岡

真若王

右七柱御母大長谷天皇之御女春日大郎女但
橋之中比賣命記不見至檜垣宮段始見御母未
詳今據書紀云

春日山田郎女

御母丸迹臣日爪之女糠若子郎女

袁本杵命

後御謚繼體天皇

坐伊波禮之玉穗宮治天下也 御年四十三
御陵在三嶋之藍
御母書紀曰活目天皇七世孫振媛上宮記同
之乎波智君之女

大郎子

出雲郎女

右二柱御母三尾君之祖若比賣

廣國押建金日命

後御謚安閑天皇

坐勾之金箸宮治天下也 御年書紀曰七十
御陵在河内古市高屋村

建小廣國押楯命

後御謚宣化天皇

坐檜垣之廬入野宮治天下也 御年書紀曰
七十三 御陵書紀曰身狹桃花鳥坂上
右二柱御母尾張連之祖凡連之妹目子郎女

石比賣命

天國押波流伎廣庭天皇之后

小石比賣命

同天皇之妃

倉之若江王

右三柱御母意富祁天皇之御女橘之中比賣命

火穗王 志比陀君之祖

惠波王 韋那君多治比君等之祖

右二柱御母川内之若子比賣

天國押波流岐廣庭命 後御謚欽明天皇

坐師木嶋大宮治天下也

御陵書紀曰檜隈坂合

御母意富祁天皇之御女手白髮命

佐佐宜郎女 拜伊勢神宮

御母息長真手玉之女麻組郎女

神前郎女

茨田郎女

白坂活日郎女

小野郎女 亦名長目比賣

右四柱御母坂田大俣王之女黑比賣

大郎女

丸高王

耳王

赤比賣郎女

右四柱御母三尾君加多夫之妹倭比賣

若屋郎女

都夫良郎女

阿豆王

右三柱御母阿倍之波延比賣

八田王

沼名倉太玉敷命

後御謚敏達天皇

坐他田官治天下也

御陵在川内科長

笠縫王

右三柱御母檜垣天皇之御女石比賣命

石上王

御母同天皇之御女小石比賣命

春日山田郎女

麻呂王

宗賀之倉王

右三柱御母春日之日爪臣之女糠子郎女

橘之豐日命

後御謚用明天皇

坐池邊宮治天下也

御陵在石村掖上後遷科長中陵

石堀王

足取王

豐御食炊屋比賣命

後御謚推古天皇

治天下崇峻天皇之後

沼名倉太玉敷天皇之大后坐小治田官

治天下也御陵在大野岡後遷科長大陵

○古事記傳二

麻呂古王

大宅王

伊美賀古王

山代王

大伴王

櫻井之玄王

麻奴王

橘本之若子王

杼泥王

右十三柱御母宗賀之稻目宿祢大臣之女
岐多斯比賣

馬木王

葛城王

間人穴太郎王

三枝部穴太郎王

長谷部若雀命

後御謚崇峻天皇
治天下推古天皇之前
坐倉椅柴垣宮
治天下也
御陵在倉椅岡上
右五柱御母岐多志比賣命之姨小兒比賣

多米王

御母稻目宿祢大臣之女意富藝多志比賣

上宮之麿戸豐聰耳命

○古事記傳二

○五十八

久米王

植栗王

茨田王

右四柱御母間人次太郎王

當麻王

須賀志呂古郎女

右二柱御母當麻之倉首比呂之女飯女之子

靜貝王

亦名貝鮪王

竹田王

亦名小貝王

小治田王

葛城王

宇毛理王

小張王

多米王

櫻井玄王

右八柱御母豐御食炊屋比賣命

布斗比賣命

寶王

亦名糠代比賣命又曰田村王
日子人太子之妃

右五柱御母伊勢大鹿首之女小熊子郎女

忍坂日子人太子

亦御名麻呂古王

坂騰王

宇遲王

寶右三柱御母息長真手王之女比呂比賣命

難波王

桑氏王

春日王

大俣王

右四柱御母春日中若子之女老女子郎女

坐岡本官治天下之天皇

後御謚舒明天皇

中津王

多良王

右三柱御母田村王亦名糠代比賣命

智奴王

桑田王

右二柱御母漢王之妹大俣王

山代王

笠縫王

右二柱御母櫻井玄王

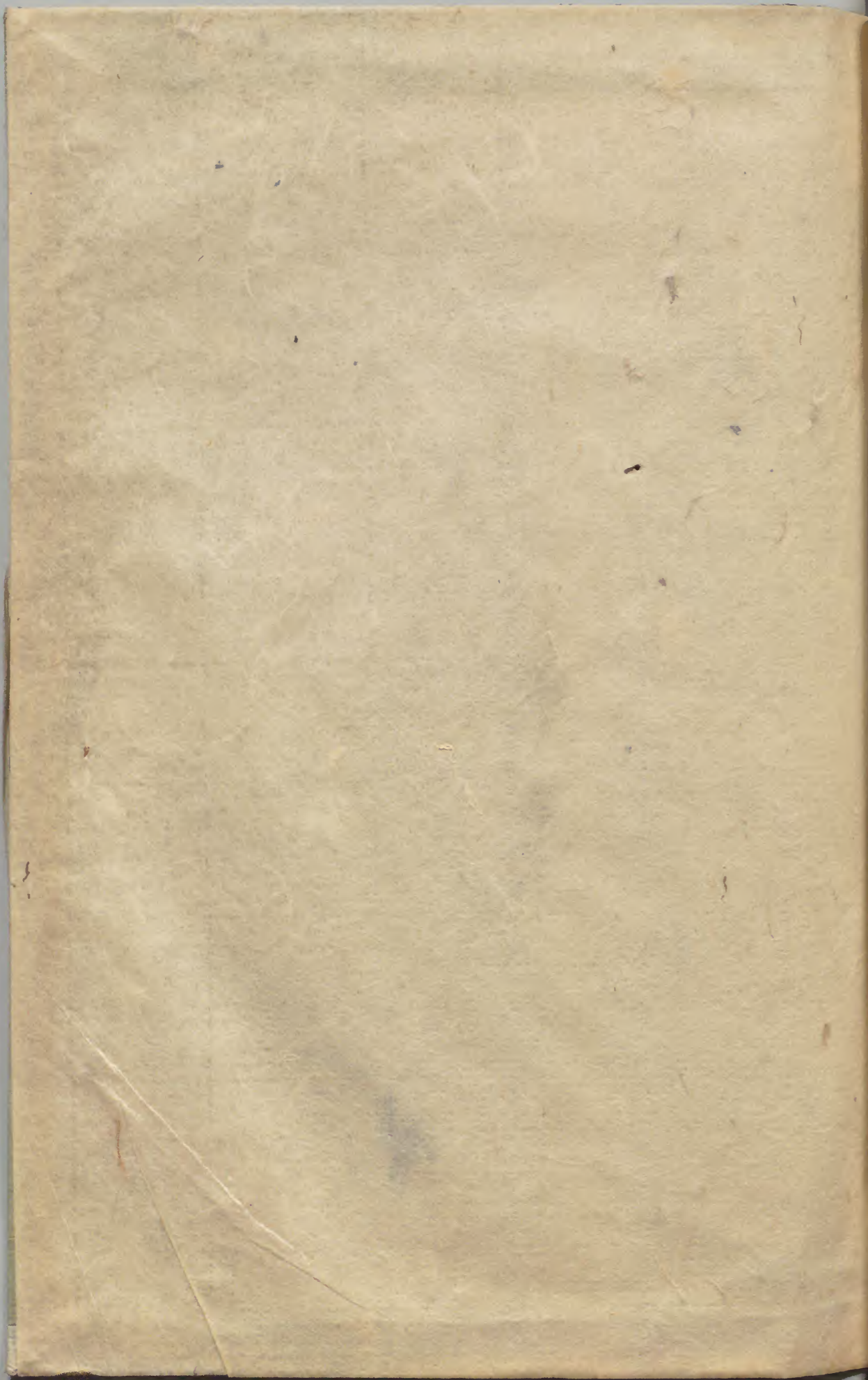


Table with 10 columns and 1 row of text, likely a list of names or titles. The text is faint and difficult to read, but appears to be organized in a structured format.

...
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

